

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	栃木県那須郡南那須町立荒川中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	23
生徒数	105	89	90	5	289	

研究の概要

1. 研究主題

「自分の未来を自分できりひらき乗り越える生徒の育成」副主題 **－主体的な生き方を育てる学習活動の在り方－**

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科

我が国の教育においては、知識や技能だけでなく、思考力、判断力、さらには学びへの意欲や学ぶ習慣を身に付けること、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばしていくことが課題と言える。

本校では、これらのことをふまえ、生徒一人一人に基礎的・基本的な内容を中心にした「確かな学力」また、「豊かな人間性」、「健康・体力」を三位一体的に扱い「生きる力」を向上させていきたいと考えた。これらの「生きる力」の育成は、9教科すべてにおいて行われるものであり、その他、道徳や学級活動などはもちろん学校行事、ボランティア活動、教育相談や部活動なども含めた学校教育活動全般において培われると考える。つまり、知的な部分と心と体を含めた総合的な見地から、確かな学力向上のための特色ある学校づくりを目指すこととした。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ	「驚きや発見のある授業」の展開
	研究の見通し	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る
研究の内容・方法	生徒の学習意欲を高める方策として適切な、指導援助の工夫、教師の資質の向上を目指す。価値のあることや、自然や社会や人間の本質にかかわりとを授業の題材とする。	
	・リアルな教材の活用・日常生活とつながりが見える授業の展開・「育てたい学ぶ力」を育てていく授業の展開・分かる授業の展開（基礎基本を重視した授業の展開、習熟度別授業の展開）	

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>生徒のやる気につながる評価の工夫</p> <p>研究の見通し</p> <p>評定も絶対評価になり、評価のしかたによって生徒のやる気を起こさせる方法を探求し工夫する。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>やる気につながる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ評価の研究 「教育ボランティア」の活用を考える ・自己評価、相互評価の実施、個人内評価、形成的評価の研究 <p>目標、基礎・基本が見える授業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画案の中に自己評価表を組み入れて評価させる。

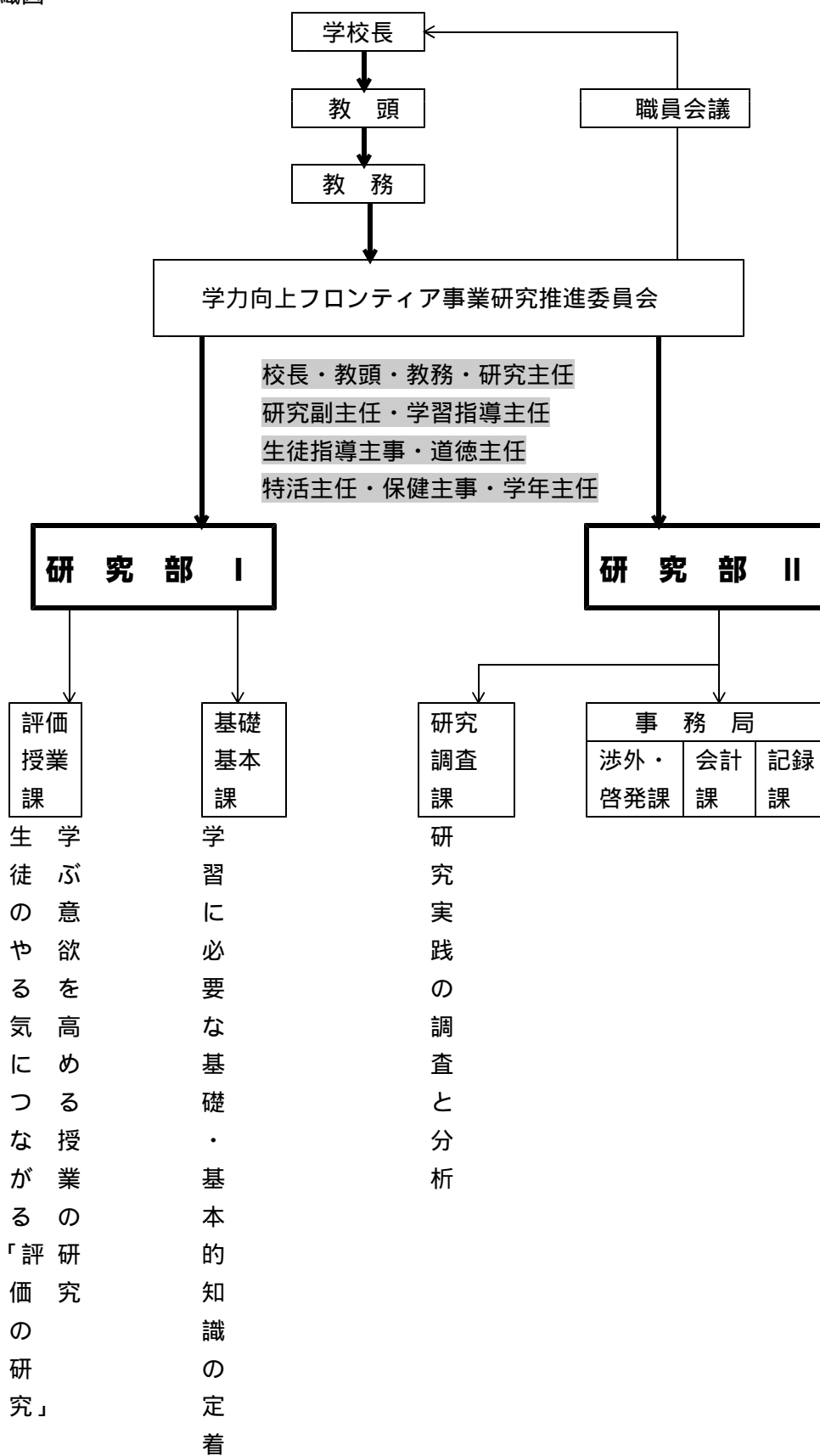
平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>自ら学習に取り組む生徒の育成</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かした「教育ボランティア」の活用 保護者・教師・地域の人が本気になって学力を向上させて行こうという態度を見せれば生徒もそれに答えてくれるだろうという仮定 ・学習意欲の内発的要因につながる評価方法の工夫や分かる授業の展開を実施する。
	<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かした「教育ボランティア」の活用 集団の一員とし、個人として学力を向上させることが集団の学力向上につながる。(選択教科) ・生徒のやる気につながる評価方法の研究を進める。 個人内評価の研究 教科に取り入れたポートフォリオ評価の研究 自主学習のできるガイド機能を持つ自己評価表の作成 ・分かる授業の展開 効果の上がる習熟度別学習の授業 効果の上がる少人数学習の授業

(3) 研究推進体制

昨年度との違い

- ・授業課と評価課の合体
内容的に関連性が深く、分けてしまうと担当の教師の人数が不足する。
- ・学級経営課の特別設置
当初は、学級内で取り組む予定でしたが、学校全体としての通常の教育活動の取り組みとして行うので、課としては全体で動く。

研究組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 教師のアンケートより（目に見える生徒の変容）

- ・自分たちの力で活動しようという意識が少しずつ見られるようになってきた。
- ・集中の度合いが増してきた。
- ・質問の仕方が「～がわからない」から「私はこう思うのですがこれはどうでしょうか」という聞き方が多くなってきた。
- ・ノートを取ることができなかった生徒が、取れるようになってきた。
- ・数学では基礎である計算の大切さを実感した生徒が多く、自主学習では計算養成を中心にしたものが多く行われるようになった。
- ・学習訓練により、学習への取り組みがよくなってきた。
- ・社会科が嫌いと言っていた生徒が、少しでも「好きになった」とアンケートに答えていた。
- ・問題の意味が分からず、集中ができなかった生徒が学習内容が理解できるようになりよく活動できるようになった。
- ・言語に関する調べ学習で評価規準を示すことにより、意欲的に取り組む生徒が増加した。
- ・授業中に解らないところは、以前より質問するようになった。
- ・チャイムが鳴る前に着席する生徒が多くなった。
- ・苦手教科にも積極的に取り組み、教科の点数のバランスも良くなってきた。

(2) 教師の変容として

- ・他の教科の授業を見て授業の組み立て方などの工夫ができるようになった。
- ・驚きや発見のある授業をやるうと心がけ、教材研究をさらにするようになった。

(3) 授業評価課

ア T・T、少人数学習、習熟度別学習法の研究

T・Tによる指導は、個々の学習状況を把握し易く援助できるので、意欲的に取り組む生徒が多くなった。

- ・習熟度別学級編成では1クラスの人数が少ないので、授業中に発言する機会も多くなり、集中して授業を受けるようになった。
- ・同レベル同士、励まし合いや協力が見られ、ミニティーチャー制が実施できるようになった。

イ 生活面と学習面の自己評価

- ・自分の取り組みや学習内容を振り返り自己評価表を利用できるようになってきた。

ウ テスト結果の掲示

特に上位層の生徒への喚起になった。また、勉強しなければならないという意欲付けになった。また、学力検査の結果から、指導重要観点を明らかにすることができた。

(4) TK式検査より(平成15年から16年)現3年生 パーセンテージ

平成15年 2年時

平成16年 3年時

偏差値	国語	社会	数学	理科	英語	合計	国語	社会	数学	理科	英語	合計
70以上	1.1		8.0	5.7	2.3	3.4		3.4				0.7
65-69	5.7	14.6	13.6	12.6	13.8	12.3	4.5	14.6	2.2	10.1	3.4	7.0
60-64	13.6	11.2	20.5	23.0	8.0	15.3	15.7	23.6	11.2	18.0	5.6	14.8
55-59	25.0	27.0	19.3	20.7	18.4	22.1	30.3	19.1	20.2	25.8	13.5	21.8
50-54	27.3	16.9	18.2	13.8	21.8	19.6	23.6	14.6	16.9	13.5	12.4	16.2
45-49	13.6	15.7	6.8	12.6	11.5	12.1	12.4	7.9	15.7	11.2	19.1	13.3
40-44	4.5	6.7	6.8	8.0	10.3	7.3	2.2	9.0	10.1	7.9	21.3	10.1
35-39	4.5	5.6	6.8	3.4	10.3	6.2	4.5	4.5	14.6	6.7	14.6	9.0
30-34	1.1				3.4	0.9	1.1	2.2	7.9	3.4	10.1	4.9
29以下	3.4	2.2				1.1	5.6	1.1	1.1	3.4		2.2

偏差値 52.7 53.7 57.0 56.4 52.5 53.9 52.2 55.6 48.4 52.6 46.1 50.6

偏差値全体としては全国平均と殆ど変わりはないが、社会が今年度になって上がり、数学・英語が下がっている。これは、履修内容が難しくなってきたことと、数学は2年のときにT・Tで授業を行っていた。3年になってT・T解除になったということも考えられる。逆に言えばT・Tの効果があったとも言える。

2. 今後の課題

- (1)効果的な少人数・習熟度・T・T授業の行い方。少人数、習熟度、T・Tの有効的な教科、単元などの検討。
- (2)自己評価を自らの内発的動機付けにつなげる方策。
- (3)教員の教材研究をする時間の確保。

学力把握のための学校としての取り組み

- ・各種アンケートの実施(保護者・生徒・教師対象)
- ・学力検査の実施(教研式標準学力検査CRT・TK式検査)
- ・各種検定の実施(英検・漢字検定・数学検定・理科検定)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定

(1) 開催実績

ア 第1回

日 時 平成14年7月30日(火)

場 所 南那須町農業改善センター

対 象 南那須町小中学校 教職員・PTA

会の目的 学力向上フロンティアの意義の伝達

驚きや発見のある授業の紹介

イ 第2回

日 時 平成14年11月19日(月)

場 所 荒川中学校 多目的ホール
対 象 南那須町小中学校 校長、学習指導主任
荒川中学校 P T A
会の目的 学力向上フロンティアの意義の伝達
驚きや発見のある授業の紹介

ウ 第3回

日 時 平成15年11月20日(木)
場 所 荒川中学校 多目的ホール
対 象 南那須地区小中学校教職員
県内学力向上フロンティアスクール教職員
会の目的 中間発表

(2) 開催予定

日 時 平成16年11月12日(金)
場 所 荒川中学校 多目的ホール
対 象 南那須地区小中学校教職員
県内学力向上フロンティアスクール教職員
会の目的 最終発表

2. 研究成果普及の実績及び今後の予定

- (1) 「フロンティアだより」の発行
- (2) H P 作成予定
- (3) パンフレット・研究紀要作成予定

3. フロンティアティーチャーとしての研究普及のための活動実績又は予定

(1) 活動実績

ア 第1回

日 時 平成14年7月30日(火)
場 所 南那須町農業改善センター
対 象 南那須町小中学校 教職員・P T A
会の目的 学力向上フロンティアの意義の伝達
驚きや発見のある授業の紹介

イ 第2回

日 時 平成14年11月19日(月)
場 所 荒川中学校 多目的ホール
対 象 南那須町小中学校 校長、学習指導主任
荒川中学校 P T A
会の目的 学力向上フロンティアの意義の伝達
驚きや発見のある授業の紹介

ウ 第3回

日 時 平成15年11月20日(木)
場 所 荒川中学校 多目的ホール
対 象 南那須地区小中学校教職員

県内学力向上フロンティアスクール教職員

(2) 開催予定

日 時 平成16年日11月12日(金)

場 所 荒川中学校 多目的ホール

対 象 南那須地区小中学校教職員

県内学力向上フロンティアスクール教職員

会の目的 最終発表



【新規校・継続校】 14年度からの継続校

【学校規模】 7～9学級

【指導体制】 T・Tによる指導

【研究教科】 国語・社会・数学・理科・外国語・音楽・美術・技術・家庭
保健体育

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有